【別紙】

１．令和元年度中央区利用状況報告

〇令和元年度千葉市は、台風15・19号の影響で被害を受けたが、その後も引き続き大雨による深刻な被害が発生した。公民館では、避難所開設に伴う一般利用の貸出し業務も休止となり、また、避難所開設が今までに例を見ない状況で発生したため、各公民館が通常業務に戻るのが非常に困難になった。中央区椿森公民館は、避難した市民が、長期的な滞在となったことにより開館期間が他の館とは異なり、一般の貸出し業務もできなかった。川戸公民館においても、停電被害により止む無く休館となり利用客が減員したと考えられる。
〇松ケ丘公民館は、市の空調改修工事により令和元年度11月～令和２年度２月末まで4ヵ月間休館となったため前年との比較はできないが、他8館においても、新型コロナウィルス感染症の影響で、市内公民館が3月3日より休館となったため、利用状況は以下のとおり（松ケ丘△15,819人、生浜+995人、新宿△1,874人、宮崎△1,483人、葛城△1,129人、末広△596人、椿森△2,398人、川戸△1,157人、星久喜△358人）となり生浜公民館を除く、すべての公民館が減員となった。

２．令和元年度事業成果と令和２年度事業計画について

	公民館名	令和元年度事業成果	令和２年度運営方針	令和２年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	松ケ丘公民館	ちば生涯学習ボランティアセンターと連携し、当初計画してなかった世界史講座を急遽ゴールデンウィークに実施し、市民ニーズにあった講座運営を取り入れて施設の利用拡大を図った。	地域住民が安心し、地域の多世代が、活用できる子どもの居場所作りの推進や子ども講座等の拡充を図る。	〇今後、学校で学ぶ少年教育事業を前年度より2事業（プログラミング・英会話お菓子づく）を増やした。 〇高齢者に人気のある歴史講座等は継続的に実施	〇市民ニーズに合う講座の実施　〇講座実施時期の調整
2	生浜公民館	評価の工夫に取り組み、事業のねらい達成度を多面的に分析できるよう努めた。利用者の思いを大切にしながら安心・安全な学習の場作りに結び付いたと考える。	安心・安全な学習環境づくりに努めながら、利用者への寄り添いを大切にした事業展開を図る。	〇利用者の思いや実態に応じた事業内容の工夫と改善 〇施設・備品等の整備と安全に関する訓練や講座の実施	〇講座の内容に関する講師との十分な共通理解 ◇講座のねらい ◇利用者への配慮 ◇効率的な学習形態等
3	新宿公民館	夏休みこども9講座は人気があり、午前・午後２回実施した講座もありました。大人の講座も物作りやスマホ講座は応募が多かった。広報手段としては、市政だより他、チラシを配架したり、館内掲示を行い情報提供に努めた。	利用が少ない層にも目を向け、幅広い層の取り込みを図る。	・前年度なかった未就学児とその親を対象とした家庭教育講座を1講座（全3回）を実施する。 ・地域にある専門学校と連携した講座を実施する。	前年度人気の高かった調理系の講座や物作り系の事業は継続しつつ、現代的課題のほか俳句や日記のつけ方など新しい講座を入れた。
4	宮崎公民館	2020東京大会を控え、パラリンピック競技の一つ、ボッチャの体験会を家族対抗で実施した。また、千葉市民活動支援センター登録団体との共催で防災教室など講座を充実させることができた。	地域住民の学習要望を把握して、魅力ある事業の実施に努める。	地域団体や近隣施設との連携を重点項目とし、宮崎公民館避難所運営委員会や蘇我コミュニティセンターとの共催事業を計画。	地域にファミリー層が多いことから土日祝日開催の事業を増やした。
5	葛城公民館	講座の見直しを行い、継続的に実施している講座のほか、積極的に現代的課題に関する新規事業を取り入れ、また、地域への広報に努めた。その結果、受講者数の増加につながった。	様々な教育機関との連携を図る。	近隣の「千葉大医学部」「県立千葉高等学校」をはじめ、「市内私立大学」、NPO、千葉市生涯学習ボランティアセンター等、幅広い組織に講師を依頼する。	就学前児・中学生対象講座を設定。講座の見直しを行い、新規事業を積極的に取り入れる。
6	末広公民館	市民ニーズを踏まえ、事業数を増やして企画・開催した。また、公民館だより（通年発行・町内会回覧掲載）による情報発信を行い、地域の方々に公民館活動へのご理解をいただく機会となった。	地域住民の学習要求に応じた事業展開を図る。	少年教育では、地域の子どもたちを対象とする事業を継続・充実していくこととする。また、子どもの居場所作り事業での空き室等の開放と児童・生徒への周知を工夫し利用促進を図る。また、成人教育の人気講座の充実も図る。	夏休み子ども工作教室、布ぞうり教室、スマホ教室に応募者が集中したため、講座数を増やす。また、オリンピック・パラリンピック機運醸成のための講座や、着付け教室・パン作り教室の成人向け講座を増やした。
7	椿森公民館	地域老人会のニーズに応じ県警や市の健康課から講師を招いたり、学校やサークルとも連携して出張講座など多くの子ども事業を実施した。また、公民館だよりを町内会で回覧、申込みや問合わせを多く集め、より事業に反映するよう努めた。	〇地域住民のニーズに応じた事業を展開し、より地域に根ざした公民館を目指す。 〇サークルの活性化を支援する。	〇好評だった少年事業は、より地域小学校と連携して内容を工夫し、夏休み以外にも事業を拡充する。 〇成人事業、子育て支援事業などもバランスよく展開できるよう講座の充実を図る。	〇企画段階より、PTA役員と連携を図り内容の充実をめざす。 〇4日間(半日)のパソコン講座を2日間(終日)に縮め、内容も画像処理に変えた。
8	川戸公民館	地域利用者や高齢者向けの講座の充実を図り、地域コミュニケーション、学習ニーズに沿った事業を実施し好評を得た。また、参加者に貴重な意見をいただいたので今後の事業に反映していきたい。	利用の少ない若年層を取り込むため、乳幼児の子育て支援の実施や地域高齢者の利用促進を図り、地域コミュニケーションの充実を目指す。	家庭教育及び高齢者教育講座を前年度に比して各２事業、地域コミュニケーションを図るためのコンサートを１事業増加させた。地域利用者の学習ニーズに応える事業展開を図る。	利用の少ないファミリー層向けの講座やアンケート結果をもとに、参加者の多い高齢者向けの講座、地域コミュニケーション向上のためのコンサートの充実を図った。
9	星久喜公民館	児童対象講座の充実共に、国際交流や英会話講座、ノルディックウォークなどの幅広い内容の企画により、これまで公民館へ来たことのない市民の参加がみられサークル化するなど、安定した事業運営ができた。	子ども・親子・高齢者を問わず多くの方が足を運び共に学び笑顔で帰る、地域のステーションとなりうる公民館運営を目指す。	青少年教育は親子体験、幅広い年齢層で平和をテーマにした歌物語を取り入れた。成人教育は人気のある歴史・古典、山野草体験を継続し、新たな事業も取り入れ利用促進を図る。	アンケート結果や参加者の意見を参考に、希望の多かった講座を継続。また、クラブ等に発展しそうな講座を新たに取り入れた。